

ペット購入、慎重に

先日、ホームセンターのペットコーナーで思わず二度見をしてしまった。犬猫の販売価格が、これまでの2倍ほどになっていたからだ。背景に、コロナ禍による在宅時間の増加がある。ペット需要の高まりで、全国の犬猫の新規飼育者による飼育頭数は、2018年までは減少傾向にあったが、20年は前年より15%も増加した。（一般社団法人ペットフード協会「2020年全国犬猫飼育実態調査」）

しかし、安易なペット購入には警鐘を鳴らしたい。三重県には「動物愛護推進センター（あすまいる）」という施設がある。「あすまいる」は、県内で収容された捨て犬猫や野良猫の殺処分ゼロに向け、新しい飼い主に譲渡したり、野良猫を増やさないための不妊・去勢手術を行ったりする動物愛護の啓発活動に取り組んでいる。20年度は犬猫合わせて367頭が譲渡された。「あすまいる」に勤務する獣医師によると、現時点では収容数の増加などコロナ禍で増えたペット需要の影響は見られないが、今後、飼育放棄が増える懸念も拭えないともいう。

三重県は、人口100人あたりの犬の飼育数が6・6頭で、香川県に次ぐ全国第2位の犬好き県である。（2019年度厚生労働省都道府県別犬の登録数、総務省人口推計）動物好きの優しい県民性に加え、比較的安定した気候や一戸建住宅率が全国でも上位という住環境など、他県に比べてペット飼育のハードルが低いといえる。

ただ、ここは慎重になってほしい。

「何年生きるのか」「飼育にどれくらい費用がかかるのか」「飼い主が病気になったら誰が面倒を見るのか」「在宅時間が減っても世話ができるのか」

「あすまいる」で新しい飼い主を待つ犬猫たちを見て、ペットとの生活を現実的に見通すことこそ、命を養い育てる者の重い責任であると痛感した。

（会員事業部 主任研究員 奥田 千夏）